

# 名古屋画廊 県内巡回32回

## 来月は福島で移動美術展

市内で最も古い画廊として知られる名古屋画廊（中区）が、郷土作家の画廊コレクションを二〇〇九年から県内各地で巡回展示している「移動美術展」が、七月に福島市で開かれる。愛知県のはぐくんだ画家の絵に触れてもらい、東日本大震災被災者への心の支援に取り組む。

（黒谷正人）



2009年4月に長久手町（現長久手市）で開かれた移動美術展。中山さん（右）が郷土画家の絵の魅力をつづらした。福島市でも愛知ゆかりの画家を紹介する

移動美術展は、名古屋画廊の初代社長、故中山一男さんが地域に画廊や美術館がない戦時中、トラックに絵を積み込み、病院などを慰問した「巡回慰問美術展」にならって始めた。戦時下に食い入るように絵を見詰め、心の糧を得た人たちの話を父親から聞いた三代目社長の中真一さん（五七が、〇八年秋のり）が、〇八年秋のり

「マン・ショックを機に「今こそ再開し、自分も絵で世の中を明るくしたい」と県内の市や町で展開する。」

これまで、主に県内の図書館や文化施設の一角などで三十二回開いた。入場無料で、延べ約六万人が来場。震災後から「被災地へも巡回できないか」と福島県の実現の可能性を探って

七月二十六日から八月一日までとなった。大正から現代までの地元ゆかりの大沢鉦一郎や鬼頭鍋三郎、桑山忠明さん、久米亮子さんら二十三人の作品を紹介する。福島市内のさくら保育園には、明るくユーモラスな絵で定評がある三重県出身の芸術家、故・元永定正さんの壁画原画を贈るほか、子どもたちが対象

## 愛知ゆかりの画家の絵紹介 被災者に心の支援

時中、トラックに絵をきたところ、今年に入りの芸術ワークショップも開く。

中山さんは「紹介する愛知の作家たちの作品は癒やしや励み、喜びがよく表れている。福島の県民性は愛知と同じく質実で粘り強い気質と聞く。きつと共感してもらえ」と話している。